

# 第15回愛媛県摂食嚥下研究会報告

2015年5月10日(日)／ひめぎんホール

## 内視鏡検査やサルコペニア対策などを学ぶ



2015年5月10日、ひめぎんホール(愛媛県県民文化会館)にて、第15回愛媛県摂食嚥下研究会が開催されました。医師、歯科医師、看護師、言語聴覚士、作業療法士、理学療法士、歯科衛生士、栄養士など、摂食嚥下障害患者に関わるさまざまな職種から総勢106人が参加。教育講演、特別講演、一般演題発表などが行われ、各施設における嚥下障害患者に対する取り組みや課題、今後の展望などについて、活発な意見交換が行われました。

教育講演では、高知大学医学部耳鼻咽喉科学教室教授・兵頭政光先生に「嚥下内視鏡検査の実際とその評価法」についてお話しいただきました。嚥下内視鏡検査は、被曝リスクなく、ベッドサイドでも行える簡便かつ有用な検査方法で、『嚥下障害診療ガイドライン2012』においても、一般外来で実施すべき検査として位置づけられています。その嚥下内視鏡検査について、兵頭先生が提唱されているスコア評価法について、実際の画像とともに詳しく解説していただきました。

特別講演では、玉名地域保健医療センター内科医長・前田圭介先生が「サルコペニアの嚥下障害とその対策」について講演。近年注目されているサルコペニアやリハビリテーション栄養について、具体的な論文を提示していただきながら、新しい知見、前田先生の取り組みについて詳しくお話しいただきました。サルコペニアの摂食嚥下障害対策としては、リハビリテーション、栄養管理、口腔ケアが三本柱であり、多職種での協働が重要であると強調。さらに食材、食形態、食事姿勢の工夫なども包括的かつ継続的に取り組むことが重要とのことでした。

嚥下障害患者は年々増え続けており社会問題にもなっています。嚥下障害予防にも目を向けた多職種の積極的な介入や早期の適切な診断が、嚥下障害治療には不可欠であると再認識でき、大変有意義な研究会でした。

共催：愛媛県摂食嚥下研究会  
杏林製薬株式会社